

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Neuropathic Characteristics In Patients With Persistent Idiopathic Facial Pain

(持続性特発性顔面痛患者における神経障害性疼痛の特性について)

麻醉科学・疼痛制御科学 (指導教授 廣瀬宗孝)

氏 名 助永憲比古

痛みは侵害受容性疼痛, 神経障害性疼痛, 心理社会的疼痛に大きく分類される。慢性疼痛患者では神経障害性疼痛や, 心理社会的な修飾が複雑に絡み合うため, 治療する際に神経障害性疼痛の有無を診断することが重要である。そのため様々なスクリーニングツールが存在するが, Douleur Neuropathique 4(以下 DN4)は客観的なツールで, 簡便に神経障害性疼痛の関与を判別できるが, 日本語版が存在しておらず, 本国ではあまり使用されていなかった。我々はまず, その日本語版を作成し, 3つの病院(兵庫医科大学病院, 福井大学医学部附属病院, 西宮市立中央病院)のペインクリニックを受診した慢性疼痛患者を対象に前向き研究を実施し, DN4日本語版の有効性, 信頼性, 妥当性を証明した。以降, 初診の全症例で DN4 を取得し, 疾患の神経障害性疼痛の関与を検討して治療に役立てている。

持続性特発性顔面痛 (PIFP) は, 以前は非定型顔面痛と呼ばれていた疾患で, その病態生理は解明されていない。神経系の障害が原因となる神経障害性疼痛や感情, ストレスが原因となる心理社会的疼痛など, 様々な要因が複雑に絡み合い脳内の情報伝達ネットワークの機能異常が生じている状態ではないかと考えられている。そこで今回, DN4 を用いて PIFP の神経障害性疼痛の特性を多施設共同研究で検討した。兵庫医科大学病院, 福井大学医学部附属病院, 西宮市立中央病院 3 施設のペインクリニックを受診した患者から, 性別, 年齢, BMI, 慢性疼痛の原因疾患, 痛みの持続期間, 疼痛強度 (VAS), 内服薬, DN4 データを取得した。PIFP 群 19 人と神経障害性疼痛である帯状疱疹後神経痛 (PHN) 群 33 人で比較。さらに, その中で年齢, 性別が一致する各 16 人に対し傾向スコアマッチングを行った。結果, DN4 スコアは PHN 群と比較して PIFP 群で優位に低かった。PIFP 群ではマッチング前 10.5%, マッチング後 12.5%であり PHN 群の 66.7%と 75.0%と比較しても優位に低かった。このことから, PIFP 群では 10%が神経障害性疼痛である可能性が示唆された。